

# 令和3年度群馬県教育委員会の点検・評価委員会結果概要

## 1 期 日

第1回 令和3年6月17日（木）13:30～15:30

第2回 令和3年7月 6日（火）13:30～15:30

## 2 場 所

県庁舎24階 教育委員会会議室

## 3 審議事項

- (1) 令和3年度 教育委員会の点検・評価（令和2年度対象）の進め方
- (2) 令和3年度 教育委員会の点検・評価に係る各所属の自己評価に対する意見について

## 4 委員の主な意見

別紙『令和3年度点検・評価委員会（第1回、第2回）における主な意見と対応について』のとおり

## 5 結論

委員の意見に基づき、自己点検・評価案を修正し、教育委員協議会での協議、教育委員会会議での決定を経て、県議会へ提出・公表した。

## 令和3年度点検・評価委員会(第1回、第2回)における主な意見と対応について

基本施策1		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
キャリア教育年間指導計画の作成率が高まっており、各学校におけるキャリア教育の取組が進んでいる。	評価できる点	第1回
公立高校全日制課程における高校3年間のインターンシップ参加率が着実に上昇してきており、昨年度の点検・評価において課題とされていた全日制高校普通科の生徒の参加も進んでいる。	評価できる点	第1回
今後、令和2年度から導入された「キャリアパスポート」の活用等を通じて、子どもたちにどのような学びの深まりがあったか、というような教育的効果の測定及び評価を行っていく必要がある。	課題	第1回
選挙権年齢の引き下げにより主権者教育の重要性は増しているが、学校における教育活動のみにより若者の投票率を向上させることは難しいと考えられるため、他部局と連携して、若者が投票しやすい体制の整備を進める必要がある。	課題	第1回
「ぐんま版消費者教育教材」について、特に高校生向け教材は「情報モラル教育」に重点を置いた構成となっているが、消費者教育においては、情報モラルに関する啓発にとどまらず、子どもたちが消費に関する情報収集や選択をする上で重要となる判断力や批判的思考力等の育成が更に図れるような教育を推進していく必要がある。	課題	第1回
コロナ禍で留学の実施や受入等が難しくなったが、今後、ZOOM等のweb会議システムを活用して日本語を学ぶ英語圏の学生等と交流するなど、新たな形の国際交流を推進していく必要がある。	課題	第1回
基本施策2		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
「はばたく群馬の指導プランⅡ」には500以上の指導案が掲載されており、内容も充実している。さらに、「ICT活用Version」も細かな情報が掲載されており、授業を行う教員にとって非常に参考になるものとなっている。	評価できる点	第1回
コロナ禍により学校が臨時休業となったにもかかわらず、小中学校の授業に大きな遅れが出なかったことは高く評価できる。前例のない事態の中でも、オンラインサポート授業動画を短期間で作成し公開するなど、子どもたちの学びを絶対に止めないという意気込みが強く感じられた。	評価できる点	第1回
「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」には紙ベースの指導案が掲載されているが、授業実践例を動画にして掲載すると、より使い勝手が良くなる。「群馬県ICT活用教育サポートサイト」に掲載されているような動画を、さらに増やしていくとよい。	課題	第1回
プログラミングに関する能力はこれからの社会に必須とされるため、プログラミング教育について、高等学校で令和4年度から新設される「情報」の授業をはじめ、様々な学習活動の中で積極的に推進していく必要がある。	課題	第1回
ICT活用について、現状では教員の活用率を指標としているが、「ICTの活用により、子どもたちに何ができるようになったか」など、教育的効果の測定及び評価も必要である。	課題	第1回
基本施策3		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
群馬県はいじめの認知件数や暴力行為の発生件数が全国的に見ても少なく、学校における児童生徒主体のいじめ防止活動等の取組が充実しているものと考えられる。	評価できる点	第1回
いじめ対策について、「関係する児童生徒や保護者が納得する対応」を実現することは大変難しいが、学校側と児童生徒及び保護者側の認識の差を極力少なくし、共通理解の下に対応に当たれるよう、より一層努力していく必要がある。	課題	第1回
いじめ防止やいじめが発生した際の対応に加え、児童生徒が円滑な人間関係を構築することができるような力の育成が重要であるため、今後も学校教育全体を通じて、子どもたちの自己有用感を育む指導を継続していく必要がある。	課題	第1回

基本施策 4		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
給食の時間について、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を適切に講じるとともに、食物アレルギー対策としても、配膳の誤り等の防止を心がけた取組が進んでいる。	評価できる点	第1回
給食について、県内ほぼ全域で完全給食が実施されており、子どもの栄養状態の改善につながっている。	評価できる点	第1回
運動部活動における外部指導者の活用は、専門技術の向上と教員の多忙化解消の2つの面から有意義と考えられるため、効果的な活用方法についてさらに検討していく必要がある。	課題	第1回
子どもの貧困が社会的な問題となる中、家庭で満足に食事を与えられない児童生徒も一定数いることから、学校教育においても積極的に状況を把握するとともに、子どもの栄養状態の改善に向けた取組をより一層進める必要がある。	課題	第1回
基本施策 5		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
教職員のストレスチェック事業において、教育委員会全体の総合健康リスクを低い基準に抑えられており、感染症対策等で教職員に大きな負担がかかる中、適切な対応がなされている。	評価できる点	第2回
教員の資質向上に関連して、多くの優秀な人材が教員を志望するようになればよいと考える。そのために、休暇取得を弾力化する、長時間勤務の状況について改善を図る等の取組を促進し、より一層ワークライフバランスを重視した労働環境を整備していく必要がある。また、今後、群馬県の教員として働くことの魅力を発信する取組も充実させる必要がある。	課題	第2回
コロナ禍により、若手教員同士が研修等で集まる機会が少なくなっているため、悩みや問題を共有できるような関係の構築をサポートする取組が必要である。	課題	第2回
障害のある児童生徒とない児童生徒の交流を様々な形で実施し、相互理解をより一層深めていく必要がある。	課題	第2回
基本施策 6		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
地域の実情に応じた防災教育を各学校種合同で、保護者や地域住民と連携して行う取組は、児童生徒のみならず地域の防災力向上のためにも重要であり、今後も継続していく必要がある。	評価できる点	第2回
通学路の安全対策について、県教育委員会として更なる情報収集に努め、保護者や地域住民等からの要望を踏まえて、危険除去に向けた対策を継続していく必要がある。	課題	第2回
本県における中高生の自転車事故発生件数は全国的に見ても多いことから、自転車通学者へのヘルメット着用促進等の取組を推進し、通学時における児童生徒の安全確保を更に徹底する必要がある。	課題	第2回
基本施策 7		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
「ぐんまの親の学びプログラム」は、様々な年代の子どもを持つ保護者が、子どもの成長の段階に応じて、他の保護者と子育てに関する悩みを共有することや、子どもへの対応方法を具体的に学び合うことができる取組となっている。	評価できる点	第2回
「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」は充実した内容となっており、本プランを基に幼稚園、保育園等において教育（保育）が行われていることは、乳幼児の健やかな成長にとって有意義である。	評価できる点	第2回
幼児教育の一層の充実のため、保護者にも「就学前のぐんまの子どもはぐくみプラン」における取組を理解してもらい、幼稚園、保育園等と保護者が共通認識の下に連携を深めていく必要がある。	課題	第2回
学校と地域が連携・協働して教育活動を行うに当たり、「地域学校協働活動支援員」を更に活用するなどして、児童生徒と地域とのつながりを深める教育活動を効果的に行うとともに、地域住民との調整役となる教員の負担を軽減していく必要がある。	課題	第2回

基本施策 8		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
社会教育施設において、コロナ禍で入場者数を思うように伸ばせない中、SNSや動画配信等を利用して情報発信を行ったことで、県民に学びの機会を提供することができた。	評価できる点	第2回
本県は特徴的な社会教育施設を多く有しており、子どもたちに学校教育では得られない学びを提供している。今後も、職員を学校へ派遣し授業を行う等の活動を通じて、子どもたちの興味関心を高めるような取組を継続してほしい。	評価できる点	第2回
今後、SNSや動画配信によるPRについて、サイトへのアクセス回数や動画再生数等を基に、効果についても検証する必要がある。	課題	第2回
不登校やひきこもりの原因には様々なものがあるが、個々に合わせた適切な支援を行っていくことにより、社会とのつながりを持てるように導いていくことが必要である。	課題	第2回
新型コロナウイルス感染症対応・教育イノベーションプロジェクト		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
学校の臨時休業や再開等、前例がなく予測できない状況の中でも、各学校が臨機応変に対応することができた。	意見	第2回
コロナ禍により学校が臨時休業となったにもかかわらず、小中学校の授業に大きな遅れが出なかったことは高く評価できる。前例のない事態の中でも、オンラインサポート授業動画を短期間で作成し公開するなど、子どもたちの学びを絶対に止めないという意気込みが強く感じられた。	意見	第2回
教職員研修について、今後、一部をオンデマンド配信とし、受講者が好きな場所で好きな時間に受講できるような環境を整備すれば、感染防止対策につながるだけでなく、働き方改革としても有益と考える。	意見	第2回
感染症対応による負担も大きい中、プロジェクト開始初年度から様々な取組が積極的に行われた。	意見	第2回
「はばたく群馬の指導プランⅡ ICT活用Version」には紙ベースの指導案が掲載されているが、授業実践例を動画にして掲載すると、より使い勝手が良くなる。「群馬県ICT活用教育サポートサイト」に掲載されているような動画を、さらに増やしていくとよい。	意見	第2回
教育イノベーションプロジェクトにおける始動人輩出の取組は、「始動人Jr.キャンプ」等を例に挙げても、本県の抱える課題について自由な発想により解決策を検討するという実践的な内容になっており、今後も継続していくべきである。	意見	第2回
ICTリテラシー向上に関する動画は、生徒にとって分かりやすい物語構成になっており、教材として積極的に活用してほしい。	意見	第2回
教育委員会全体の取組		
点検・評価委員 意見要旨	報告書掲載方法	第1回又は第2回
コロナ禍の混乱の中においても児童生徒の学びを止めず、更に「教育イノベーションプロジェクト」等の新たな取組を推進するなど、県教育委員会が一丸となって課題の解決に当たった。	評価できる点	第2回
本県が有する社会教育施設は、子どもたちに貴重な学びを提供する場となっている。	評価できる点	第2回
1人1台端末等のICT環境整備が積極的に進められたが、今後、全ての教員及び児童生徒のICT活用スキルの向上が課題である。	課題	第2回
教員にとって働きやすい環境を整備することが教員の魅力向上にもつながるため、今後も継続して働き方改革の取組を推進する必要がある。	課題	第2回
不登校・ひきこもり等の悩みを抱える青少年が社会とのつながりを持てるよう支援していくとともに、学校教育において豊かな人間性を育む教育活動をより一層推進していく必要がある。	課題	第2回